【ポスターセッション】

ガントレット恒子、岡山時代の足跡

－1900 年代における－

○　福岡教育大学　　氏名　松倉　真理子（会員番号 4218）

キーワード：ガントレット恒子、近代日本、社会福祉史

１．　研 究 目 的

公娼制度廃止運動等に尽力した矢島楫子の薫陶を受け、のちに女性指導者のひとりとなったガントレット（旧姓：山田）恒子（1873-1953）の名を取り上げられることが増えてきた。しかし、その断片的な人物像――外国人男性[1]との法的な婚姻を果たした第一号の事例として、近代日本を代表する音楽家・山田耕筰の長姉として、あるいは婦人参政権獲得運動のリーダーとして――に、目が向けられることはあっても、その全体像の解明、評価には未だ着手されていない。

本報告は、ガントレットの足跡の全体を詳らかにすることで社会福祉・女性福祉における史実の隙間を埋め、また、それらを評価する研究の一過程として、ガントレットが岡山で過ごした 1900 年代初頭の 6 年間について調査・考察するものである。これまで、1920 年代にガントレットが精力的に取り組んだ「婦人参政権運動」、「生活改善運動」、「平和活動」の検討などをおこなってきた。若く穏やかに過ごした岡山時代が、帰京後の彼女の積極的な取り組みにどのように連ねられるのかを考察したい。

２．研究の視点および方法

過去の歴史が現代における問題に投影されるという視点にたち、ここでは、ガントレットが岡山に残した足跡と、キリスト者として取り組んだ慈善活動などについて、文献調査および現地調査を行う。

３．倫理的配慮

本報告は日本社会福祉学会研究倫理指針に則って実施した研究の一部であり、研究・発表にあたっては公的に発表されるか関係者の許可を得た史資料を使用・参考するものとする。

４．研 究 結 果

ガントレットが岡山に越してきたのは、1901 年頃のことだと思われる[ii]。この時期、ガントレット一家が間借りした三友寺（現：岡山市門田屋敷 2 丁目）境内では、石井十次らによる岡山孤児院での孤児救済活動がピークを迎えていた。この期間における勤務記録、教会活動記録、書簡、執筆ほか史資料や文献を整理し、年表を作成することにより、一家に起こった出来事や暮らしぶりを整理した。その中で、

① 婚姻成立を経て、ようやく落ち着きを取り戻した一家の生活において、教師の仕事と育児とを軸にしながら、キリスト教信仰を背景にした西洋文化の具体的な伝播者として、新しい生活様式や価値観の普及に努めた。

② 当時、岡山を拠点として活動していたキリスト教慈善事業家らとの交流・協力があった。

③ その一方、夫エドワードを通して「エスペラント運動」に接近。しかし、「日本エスペラント協会」発足準備をめぐって、時局下、次第に議論が左右の政治性を帯び始めたことに、夫婦の戸惑いがうかがわれる。（しかし、これが図らずも運動団体の立ち上げや組織化に接した初めての経験となった。）

④ 「日本基督教婦人矯風会」の各分課の課長を務め、『婦人新報』の執筆を担当した。

などの足跡がみられた。

5. 考 察

社会全体が政治的・産業的な近代化を標榜するなかで、ガントレットは、当時進歩的とされたキリスト教信仰に基づきながら、一般市民の家庭生活、つまり社会の内面を掘り起こすことこそが近代化に必要と感じていた。短い間とはいえ充実した岡山時代において、合理的で新しい生活様式の実践、女子教育への従事、出会った人々とともに社会事業や地域活動に励むことを通して、市民とりわけ「家庭の主婦」にまなざしを向け、「女性の地位の向上」と「女性の考え方と行動の近代化」とがセットとなって「社会の近代化」は遂げられると考え始めるようになったことがうかがわれる。こうして、岡山・金沢・山口での地方在住時代を経て 1916 年に帰京したガントレット恒子は、「日本基督教婦人矯風会」の活動に指導者として積極的にかかわり、久布白落実らとともに「婦人参政権運動」を始めとした社会運動に奔走することとなる。

---

[i] 夫は英国人 Gauntlett, George Edward Luckman (1868-1956)。 英国ウェールズ州出身。1890 年、メソジストの宣教師として来日し、各地で英語、簿記などの教師を歴任。エスペラント運動家、山口秋芳洞の探検家、パイプオルガン奏者などのほか、様々な西洋文化の伝播者としても知られる。

[ii] 『自伝　七十七年の想ひ出』（1949,植村書店）では 1902 年とされているが、『山陽新報』記事によるとこの年の秋の音楽会に夫妻で出演していることから 1901 年後半には岡山に赴いていたものと思われる。